

子どもが創る・子どもと創る – 多様な学びと社会を実現する –

特定非営利活動法人東京シューレ

2022年度(第24期)

活動報告書

(決算書・貸借対照表)

特定非営利活動法人東京シューレ

東京都北区岸町1-9-19コーエイビル 〒114-0021

TEL03(5993)3135 FAX03(5993)3137 E-mail : info@shure.or.jp URL : <https://shure.or.jp>

もくじ

ごあいさつ 代表理事	-----3
2022 年度(第 24 期) 事業報告及び決算	-----4
■ 1. 2022 年度基本方針・重点目標をふり返る	
■ 2. 事業の概要	-----5
■ 3. フリースクール等の事業について	-----5
■ 4. ホームエデュケーションネットワーク運営事業について	-----9
■ 5. 公民連携事業	-----12
■ 6. その他の事業	-----13
■ 7. その他の活動について	-----14
■ 8. 収益事業	-----16
■ 9. 団体の運営に関する報告	-----16
■ 10. 決算に関する報告	-----21
監査報告	-----28
役員体制	-----30

ごあいさつ

日頃から、東京シューレの活動にご支援・ご協力を頂き、誠にありがとうございます。

今年の NPO 総会は 3 年ぶりに、皆さまと対面で行うことが出来るようになりました。オンラインでの良さもありましたが、やはり、お会いし、直接会場でのやり取りができることでみなさまとの距離も近く、ご意見も伺いやすくなり、年次報告をすることができました。

2021 年に団体として、性暴力加害事件に真摯に向き合う組織になるべく、大きな変革に取り組みました。今年度も外部理事の方々からの協力を受け、共同代表制を継続し、人権委員会の再スタート、人事・コンプライアンス委員会の立ち上げなど、組織の再建に取り組んでまいりました。しかしながら、事件に関しては、まだまだ課題も多く、今年度も重点課題として取り組んでまいります。

また、「子どもが創る・子どもと創る～多様な学びと社会を実現する」のビジョンのもと、より子ども・若者の参加参画を推進し、その声が反映されるよう推進していきます。

子どもたちの活動においては、新型コロナウイルスもだいぶ落ち着きを見せ、コロナ前の活動にほぼ戻ってきました。スペース間の交流もできるようになり、2022 年度は 11 月には音楽祭を、12 月には文化祭を東京シューレ全体の行事としてリアルに集まって行いました。その他、各スペースで宿泊を伴う行事なども行うことが出来ました。

しかし、コロナ以降、フリースクール・ホームシューレの会員が断続的な減少が続き、その影響は未だに深刻な状況です。会員の皆さまや企業からのご寄付で支えていただいたり、役員・スタッフ等の関係者からの資金借り入れ、スタッフに賞与の減額協力を求めたりして、2022 年度決算を迎えました。財政課題については、認定 NPO 化も目指しておりますので、ぜひ、皆様の引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

東京シューレがこの先においても、子どもたちが持っている一人ひとりの命が大切にされ、安心して成長し、ここに会えてよかったと思ってもらえる場として存在していけるよう、是非、みなさまからお力をお貸しください。今後とも、よろしくお願いいたします。

NPO 法人東京シューレ 理事会

2022 年度（第 24 期）事業報告および決算

■ 1. 2022 年度の基本方針・重点目標を振り返る

2022 年度の通常総会において、下記の重点目標(テーマ)を設定して 1 年間取り組んでまいりました。

重点目標（2022 年度の再掲）

〔重点目標 1〕子どもの多様なニーズに対応できる居場所・学び場づくりを推進し、発展させる

- ① シュールにおける「子ども主体」・「子ども参加参画」、「自己決定（自己尊重）」・「他者尊重」・「個・多様性の尊重」など、根幹に改めて立ち返り、現状を問い、どうありたいかを子ども・保護者・スタッフで対話・議論し、その実現に向けてチャレンジしていく
- ② スタッフ・ボランティア・講師などは関係や連携を深め、子どもの多様な個性や興味関心が生かされ実現するよう支えていく。そのための組織内外での研修や自己研鑽を重ねていく
- ③ 子どもの数が増えるよう、活気ある居場所・学びの場づくりを目指す
- ④ 子どもの成長や自立に大切な遊び・スポーツ、自然体験、性の学び、権利の学び等を充実させていく

〔重点目標 2〕厳しい財政状況を直視し、組織と活動を存続させるための短期・中長期の計画策定と取組を進める

- ① ニーズを持つより多くの子ども・保護者と出会い、受け入れ、会員増を進める。ホームページリニューアル、説明見学会・オープンデイ・親の会などを工夫し、継続的に丁寧なフォローアップ・支援を行う
- ② 認定 N P O 法人化を進め、寄付・ファンレイジングによる資金調達・確保を推進する。認定取得に必要な組織整備や公益性の高い活動づくりなど、組織基盤を整備する
- ③ 積極的に外部の知見や経験、実践に学び、早期に生かす

〔重点目標 3〕東京シュール性暴力加害事件に関して、被害を受けた元会員との意思疎通をしながら、必要な取組を行う

- ① 人権委員会の整備、つづく第三者調査検証委員会の設置により加害被害の全容を究明し、元会員の皆さんへの謝罪と対応を進める
- ② 性暴力加害や人権侵害の再発防止施策を推進する
- ③ 裁判和解時の約束であった会員向け人権・相談に関する啓発・情報提供パンフレットの配布開始と学習活動を進める

〔重点目標 4〕公民連携・中間支援組織との連携を軸に、不登校に対するネガティブな社会価値観を変えていくと共に、学校外の学び・学び場の制度整備を促進する

- ① 居場所・フリースクールの強みを生かした公民連携（世田谷区、北区、新宿区、大田区、千葉県、東京都）を推進していく
- ② 中間支援組織（フリネット、全国ネット、T F N、C F N など）や多様な学びとの連携を継続・再構築して進める

〔重点目標 5〕組織基盤の整備とスタッフの働き方改革をすすめる

- ① 組織改編にもとづく新たな運営体制（理事会法人運営と運営員会教育運営）や事務局体制、業務分掌の仕組みづくりを進めていく
- ② 情報開示・公開性を高め、団体の構成員や関係者にも、社会にもオープンな組織運営に変えていく
- ③ スタッフの業務削減と効率化により、スタッフがゆとりをもって子どもと向き合える環境づくりを行う
- ④ 常勤スタッフの有給休暇 2021 年度実績 5.3 日を実現可能性の高い日数目標を明確に設定する

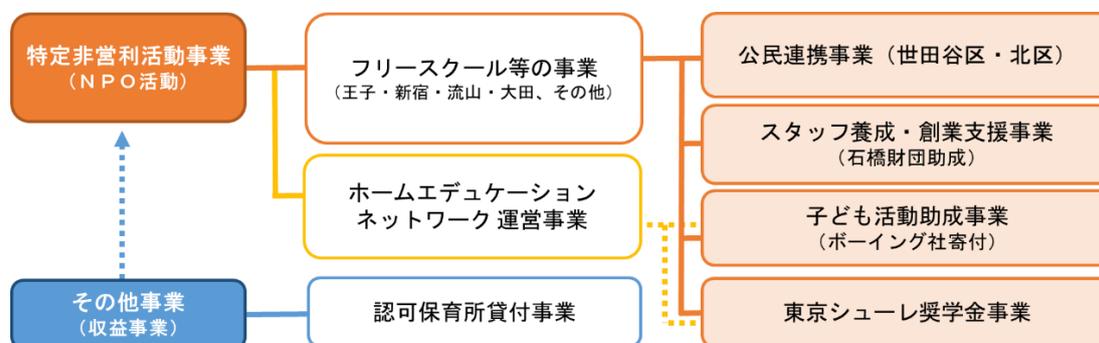
■ 2. 事業の概要

2022 年度(第 24 期)においても、「フリースクール事業」と「ホームエデュケーションネットワーク(在宅不登校支援)事業」を基幹事業として多様な活動に取り組んできました。

(1) 会員数等の動向

2022年度在籍者数 ()は2021年度															
	王子		新宿		流山		大田		ホームシューレ		ほっとスクール「希望丘」				
説明会申込者数	126 (206)														
説明会参加者数	90 (141)														
オープンデイ参加者数	73 (30)														
入会者数	13 (13)		25 (14)		8 (6)		11 (8)		11 (25)						
在籍者数	年間	年度末	年間	年度末	年間	年度末	年間	年度末	年間	年度末	通室者数	正式生	通室生		
	初	15 (24)	9 (18)	16 (11)	13 (10)	6 (5)	6 (5)	26 (23)	20 (23)	正会員	123 (138)	112 (118)	小学生	18 (17)	43 (29)
	中	16 (20)	13 (13)	18 (13)	13 (10)	12 (11)	9 (10)	16 (12)	10 (10)	メッセージ	24 (40)	14 (26)	中学生	26 (23)	30 (32)
	高	43 (52)	35 (48)	26 (27)	26 (25)	14 (12)	12 (10)	6 (5)	6 (4)						
計	年間	74 (96)	57 (79)	60 (51)	52 (45)	32 (28)	27 (25)	48 (40)	36 (37)		147 (178)	126 (144)	計	44 (40)	73 (61)
	年間	214		(215)		172		(186)							
	年度末														

(2) 2022 年度の事業・活動全体の様子



■ 3. フリースクール等の事業について

4 スペースを週 5 日で開設し、6 歳(小 1)～23 歳(入会は 20 歳まで)を対象に受け入れ、初等部・中等部、高等部と高校コースを置き、子どもミーティングで活動や学習をつくっていく子ども中心の学びを継続し、新型コロナウイルス感染拡大防止に取り組みながら工夫してスペース運営を行いました。説明見学会や体験見学・オープンデイ、開室時間など、各スペースの独自性を活かす運営を推進しました。

コロナ感染対策として控えていた宿泊活動についても、積極的に取り組み、富士急ハイランド合宿、京都旅行、鉄道の旅(王子)、山梨キャンプ(新宿)、スペースでのお泊り会(大田)、ハワイアンズ合宿(流山)、スキー合宿(全体)など実施することができました。

子どもたちの多様な興味関心を大切に、その興味関心が、繋がり合い広がっていく取り組みとして、合同の企画やイベントも子ども実行委員を中心につくり、8 月 23 日には、神奈川県横浜市金沢侍従川で公開企画として「自然塾」、11 月 23 日には、渋谷区のオリンピックセンターを会場に表現活動の発表の機会として「音楽祭」、12 月 15 日には、新宿シューレを会場に、模擬店やゲーム大会、かくれんぼ大会を通して交流の機会として「東京シューレ文化祭」を開催しました。

(1) 王子シューレ

事業費 3,073 (3,851) 万円 ※ () は 2021 年度実績

2022 年度は、年間を通して 13 名が入会し、33 名が退会しました。年間を通じて、オープンデイの定例開催、説明会の実施回数増など、入会増を促進する取り組みを行いました。期首の入会予測達成には至りませんでした。子どもたちの居場所・活動づくりにおいては初中等部・高等部という 2 部制をとり、それぞれのミーティングを核とした活動づくりを行いました。部ごとでは盛り上がりには十分な参加者を集められない企画も出始めるなか、個々の関心や人間関係を軸に、縦のつながりを生かした活動づくりが盛り上がりを見せました。また、スペースや部門を超えて参加者を募った企画も成果を上げ、個々の「やりたい」を応援することができました。コロナ禍の収束に向けて、合宿行事や食の活動が勢いを取り戻す兆しがあり、また全体企画の実行委員会への参加も実現しています。

① 表現・発表の機会が充実しました

- 活動発表会を学期に 1 回実施し、日ごろシューレや家庭で取り組んでいることを発表し合う機会を持ちました。
- 音楽祭では、リアルと記録の 2 つの形態で音楽やダンスの発表を行い、文化祭では独自コンセプトのカフェ運営や自作アクセサリの販売、独自に開発したフライトシミュレーターの展示・実演ブースを設けたりしました。
- シューレ通信へのイラスト寄稿が増え、3 ヶ月ごとの特集記事作成も全て会員の手で行いました。
- 旅立ち祭でも、数多くのメンバーがバンドやダンスの発表を行ったほか、実行委員としてステージであいさつをしたり、旅立ち式で送る言葉を伝えるなどの役割を務めました。

2021	こんなことがありました
4 月	お花見、チュートリアル
5 月	プログラムづくり
6 月	シューレ通信 400 号記念号作成 田植え体験、スポーツ交流会、37 周年祭
7 月	なつまつり、活動発表会①、避難訓練 明聖高校スクーリング (SC) ① 性の学びフェスタ
8 月	担任見学会
9 月	化石展
10 月	ハロウィンパーティ
11 月	音楽祭、スポーツ交流会、富士急ハイランド旅行、国宝展
12 月	文化祭、活動発表会②、クリスマス会 明聖高校 SC② 三和高校 SC②
1 月	新年会、京都旅行
2 月	観劇 (劇団四季)、スキー合宿、日帰りスノーボ
3 月	活動発表会③、NFH、旅立ち祭 お花見、鉄道の旅

② 自然・文化・社会を体験する合宿活動や、スペースを越えた企画を実施しました

- 秋以降、他府県への移動が緩和されたのを受け、ミーティングで希望先を出し合ってプレゼンを行った結果、富士急ハイランドへの 1 泊旅行が実現しました。アトラクションを楽しんだほか、氷穴・風穴を見学したグループもありました。
- 「旅のフリースクール」では、新型コロナウイルスをめぐる状況の変化も踏まえて行き先を変更し、1 月に京都旅行を実現させました。実施後に王子シューレ内で報告会を行うと共に、写真や感想を交えた報告書、アルバムも作成しました。
- コロナ前からの念願である「NFH」を再開し、王子から 3 チーム、新宿から 2 チームが参加して大成功を収めました。
- 「鉄道の旅」を企画し、他のスペースやホームシューレにも呼びかけ、実現させました。

③ 性、人権に関する学びを行い、環境を整備しました

- スタッフおよびサポートスタッフがいずれも複数、年間を通じて「性を学ぶ会」「性を語る会」での学び合いを続け、7 月に実施した「性の学びフェスタ」の運営に参画しました。2 月には、助産師の方を講師に「生と性の講座」を実施しました。
- 自身の特性を知り、自らに適した生き方や人との関わりかたを考えるために役立ちそうな書籍の導入を進め、それらを介して日常的な対話を行うことで、深く考える機会が生まれています。

④ 活動・学習環境の整備、サポートを実施しました

- NPO 法人 eboard が提供するオンライン教材を活用し、個別学習を行う会員のサポートを行いました。また、学びなおしをはじめとして、年齢・学年にとらわれず一人一人が必要とする学習を進めるための教材研究を行い、個々に適した学習スタイルの追究を行いました。
- 同じく eboard 社から、子ども若者の活動に必要な機器に対する助成をいただき、ミーティングで意見を集め、新しくプロジェクター、プリンター複合機、iPad Pro・アップルペンシルを助成金にて購入しました。情報を調べたり、資料を集めたり、手書きの作品をデジタルに変換するなど、よりフレキシブルに子ども若者自身が活動できる体制を整えています。
- 初等部では、ミーティングで出た意見を元に週に計 3 回の「学習タイム」「おべんきょうタイム」を設け、他の活動との時間の切り分けを意識したプログラムを作成しました。高等部では、主に高校コース在籍者向けに「レポートサポート講座」を週 3 回設けることで、集中的にサポートをする体制を組みました。
- 受験サポートや資格取得のための勉強、それらを見据えた基礎学力の獲得など、個々の状況とニーズに合わせた学習サポートを実施しました。
- アマゾンジャパン、S.P.C.Japan/バルサ財団などの協力を得て、工場見学やスポーツ (フットサル、ブラインドサッカーなど)

の体験しました。

⑤ ボーイング社の助成金を活用し、「職を知る」「人に会う」企画を実施しました

- ・ 「美の時間」を新設し、ネイル、茶道入門、ピラティス・ヤマナ、パーソナルカラー診断、骨格診断、ヘアアレンジ・美容学校見学、話し方講座などを実施しました。「シリーズ人間」では、探偵、催眠術師、精神科医、保育士、遺伝子研究者、超絶技巧の鉛筆画家を招きました。いずれも、それぞれの領域での最新の情報を得ると共に、ひとり一人の講師のライフストーリーを聞くことで、経験してきた様々な選択をリアルに知り、それぞれの仕事のおもしろさと難しさを伺いました。
- ・ 就労を視野に入れた年代の会員に伴走しながら、複数の就労移行事業所・自立支援事業所への見学を行いました。
- ・ 9月と11月には『化石ハンター展』『国宝展』に行きました。また、3月には海上保安庁の安全基地見学に行きました。
- ・ 声優として活躍している卒業生を招いてお話を伺いました。また、シューレを旅立った後にアルバイトや休養を経て自分のやりたいことを見つけて学んだり、それを仕事にするためのチャレンジをしている先輩の話聞く機会を作りました。

⑥ スタッフ体制、スタッフの学び

- ・ 9月に常勤スタッフ1人、また3月末を以て常勤1人・非常勤1人の退職がありましたが、財政面を考慮して新規スタッフ募集は行わず、サポートスタッフやボランティアの力を借りながら、学びや活動の勢いが衰えないようなスペースづくりを行うことができました。
- ・ 国際医療福祉大学、東京福祉専門学校、大東文化大学、東洋大学、日本女子大学から、学部生・大学院生・専門学校生の見学実習を受け入れました。各校の教員がフリースクールに関する理解を深め、学部の講義などで情報提供をしてくださったことにより、新たに学生ボランティアとして関心を持つ学生が現れ、会員との年齢の差を考慮しながら初中等部の活動を中心に継続的に活躍してもらっています。
- ・ 株式会社 eboard 社が開発中のフリースクールスタッフ向け養成研修を受講し、第1期（学習支援について、常勤4人参加）第2期（教育心理について、常勤4人・非常勤3人参加）共に、それぞれが知識をブラッシュアップするとともに、実際に行っている活動づくり、学習サポート、個々の子ども若者とのかかわりについて互いに考え合う時間を持ちました。

⑦ コミュニケーションツールの活用

- ・ 公式 LINE アカウントを開設し、現役会員および保護者に対するお知らせを配信するほか、イベント・企画ごとにグループチャットを活用することでメンバー同士の相談がしやすくなりました。外出時にも、スタッフ個人が連絡先を明かすことなく、緊急連絡を受けられる体制が確立しました。また、卒業生も OBOG として登録し続けることで、卒業後に連絡を取りやすい体制を作り、折に触れて、王子を訪ねて近況報告をしてくれたり、現役生との交流を持つ機会が生まれています。
- ・ 主に初中等部の保護者に向けて、Slack での情報発信、日常の様子を紹介を行いました。
- ・ スタッフ間では Yammer や OneNote での情報交換・蓄積を行うことによって、異なる曜日に勤務する同士や、別の階で活動を見守っているスタッフ同士が丁寧な情報共有を行うことができました。

⑧ その他 収入増・支出減の取組み、地域との関わり、Amazon ほしい物リストの活用など

- ・ 活動費を充実させる取組みとして、スタッフ食堂企画を実施しました。
- ・ 7月以降、定額制からごみ袋数に応じた料金への変更があったのを機にゴミ節減に取り組んだ結果、約9万円の節約ができました。
- ・ 北区社会福祉協議会が主催する「おちゃのこ祭祭」というイベントに対して会場提供を行うと共に、会員自作のアクセサリ類を販売する形で参加も行いました。
- ・ Amazon ほしい物リストを活用し、会員の関心を広げ、探求をふかめるために必要と考えられる書籍や物品のご寄付を保護者の方から頂きました。今後も、限られた活動費の使い方をミーティングを通じて検討するとともに、応援して下さる方のお声をしっかりと受け止める体制を作っていきます。

課題と今後の方向性

① 入会増の取組み重点化

- ・ 2023年度は、期首で正会員30人、準会員11人という、王子シューレにとっては小規模なスタートとなります。活動を持ち上げ、必要に応じて同学年・同年代とのつながりを豊かにしていくためにも、引き続き、入会増のための取組みを強化していきます。
- ・ 現会員の在籍校との連携を通じてフリースクール活動の実態を着実に伝え、必要とする不登校児童生徒や家庭に情報が届くような発信を行っていきます。また、見学に来た子ども若者や保護者とのコミュニケーションをより丁寧に行うことで、ニーズを適切に把握することで、見学を入会につなげていきます。

② スタッフ体制の充実化

- ・ 子ども若者のやりたいことを応援することはもちろん、複数のおとなのかかわりの中で各自が自らを知り、仲間と関わり、自らの生き方を見つけて行くためにも、場に関わってくれる大人の数を増やしていきたいと思えます。継続的に関わりを持ってくださるボランティアの活用のほか、引き続き保護者の方の協力も得ながら活動を豊かにしていきます。

(2) 新宿シューレ

事業費 2,167 (2,215) 万円

今年度は、25 人が入会（初等部 8 人、中等部 10 人、高等部 7 人）しました。新型コロナの感染予防でできなかったことも、感染に気をつけながら活動（料理講座や合宿など）を増やしていきました。初・中等部の人数が増えたことで、各部の活動が盛り上がりました。

① 各部の充実

- 全体ミーティングと別に初・中・高等部のミーティングを毎月行いました。話し合いも活発になり、各部企画の活動もできました。
- チュートリアル、進路ミーティング
- 初等部の公園や水遊びなど外企画も増えました。

② イベントの充実

- 27 周年祭、ハロウィンパーティ、クリスマス会など、イベントを行いました。
- 年度末のイベントの新宿祭では、作った映像の上映やクイズ大会を行い、観客も参加するなど賑やかな会になりました。
- 文化祭・音楽祭・旅立ち祭など全体に関わる実行委員会では、積極的に実行委員会に関わり活動しました。

③ 活動・学びの充実

- 初・中等部の基礎講座、英会話、社会講座、高校コースレポートサポート講座、高認対策講座、大学受験対策講座、受験面接の講座などの学びを行いました。
- 全体ミーティングと別に各部別のミーティングを毎月行いました。話し合いも活発になり定着してきました。
- 10 月に山梨キャンプ合宿を行いました。実行委員会やミーティングで話し合い、子どもたち中心に計画を立て実現しました。
- 卓球、フットサル、プール、野球などのスポーツを定期的に行いました。
- 他スペースとの交流（イベント、スマブラ大会、ポケモン大会、野球、スポーツ交流会など）を積極的に行い、スペース間の交流が深まりました。

④ 表現活動の充実

- バンドやピアノの連弾、ポイトレ講座から歌の発表、映像と歌のコラボなど音楽活動が充実しました。
- 映像の企画・制作、ゲーム動画などを作り、新宿シューレの YouTube にアップしました（内部のみ公開）

⑤ スペースの更新について

- 2023 年 7 月で建物の契約が終わるため、新宿区に契約の更新をお願いしましたが、最後の 1 年の更新となりました。

⑥ 内部向けの発信

- 公式 LINE、保護者メールで日常のお知らせを行い、その他、会員向けに Twitter、YouTube で日常・イベントの様子を発信しました。

⑦ 会員増に向けて

- 説明会を毎月（8 月以外）行いました。
- 毎週、オープンディ・個別相談、高校コース説明会の日にちを取り、シューレに来やすく、見学につながるよう心がけました。
- 新宿区勤労者・仕事支援センターから助成と新宿区から後援いただき、5 月に公開イベントを行いました。参加者の多くは初めてつながった方で、東京シューレのことを知っていただける機会になりました。

2022	こんなことがありました
4 月	高校コース入学式、通信作り
5 月	新宿公開イベント
6 月	お泊り会、通信作り
7 月	27 周年祭
8 月	担任見学会、通信作り
9 月	野球交流会
10 月	山梨キャンプ合宿、ハロウィンパーティー
11 月	文化祭、通信作り
12 月	音楽祭、クリスマス会
1 月	餅つき
2 月	節分（豆まき、恵方巻）、スキー合宿、通信作り
3 月	スノーボード体験、旅立ち祭、高校コース卒業式、新宿祭、お花見

(3) 流山シューレ

事業費 1,428 (1,437) 万円

流山シューレとしては 8 年目。コロナ感染予防対策の習慣も定着し 子どもが毎年楽しみにしていた「料理」や「おやつ講座」が再開できました。「子ども予算」は引き続き前期・後期に分けて提示し「子どもミーティング」で使い方を話し合いました。その結果、「何かやる日」の過ごし方の工夫がみられ、ボードゲーム等の環境も充実しました。「ハワイアンズ合宿」は、実行委員会ができて子ども中心の合宿となりました。文化祭・音楽祭では、かくれんぼ企画・映像・歌・司会など様々な形で参加できました。高校コースは、今年度入学の 5 名が加わり計 10 名となりました。

① 広報活動

- ・ ブログキャンペーンでは保護者や子どもから体験談を寄せてもらい反響もありました。
- ・ CFN 懇親会：地域の SSW とつながることができました。

② 学習

- ・ 高校コースは自主的に学習を進める様子が見られました。

③ 千葉県フリースクール等ネットワーク(CFN)

- ・ 千葉県不登校児童生徒情報交換会は、千葉県教育委員会と協力して開催しました。年に 5 回開かれる懇親会も毎回異なるフリースクールで行い、情報交換等も充実しました。

2022	こんなことがありました
4 月	高校入学式 花見
5 月	ゲーム大会 CFN 懇親会
6 月	「清水公園」ゲーム大会 お泊り会
7 月	ゲーム大会 高校コーススクーリング
8 月	開放日 CFN 懇親会
9 月	面接指導清水公園・ゲーム大会 17 ミーティング ハワイアンズ合宿
10 月	保護者面談 清水公園 避難訓練 CFN 懇親会 お泊り会
11 月	保護者面談 清水公園 音楽祭
12 月	クリスマス会 CFN 懇親会 文化祭 高校コーススクーリング
1 月	ゲーム大会 初詣 高校入試
2 月	スキー合宿 高校定期試験
3 月	旅立ち祭 高校卒業式

(4) 大田シューレ

事業費 1,447 (1,547) 万円

「安心感・自己肯定感につながる初等部の活動づくり」「充実感を持てる中・高等部の活動づくり」「会員増」「保護者・行政・地域とのつながり」を柱に活動をつくってきました。また、昨年度はオープンディを取り入れ、大田シューレに関心のあるご家族に訪訪していただく機会を持ちました。が、なかなか入会数には結び付きませんでした。

① 活動の確認・認識

- ・ 昨年度に引き続き午前中に「朝の会」「学びタイム」「活動タイム」を設け、活動を確認・認識しながら活動づくりを行ってきました。特に「活動タイム」のやり方についてはミーティング等で話し合いがもたれ、子どもたち自身でもこの時間の意味や使い方を考える時間がありました。

② 火曜講座の充実

- ・ 2021 年度から始まった「火曜講座」を充実させました。干潟体験、性講座、キミコ方式、花文字体験、リズムワークショップなどを行いました。

③ サークル活動の充実

- ・ 生き物クラブ、バスケットボール、サークル活動を子どもたち自身が立ち上げ、どのように活動をつくっていくか考えました。

- ・ ゲームサークルも立ち上がり、数回行ったゲーム大会はルールなども含め、子どもたちで運営をしました。

④ 中高等部の活動時間

- ・ 昨年度より、中・高等部は 30 分時間を延長し中・高等部だけの時間をつくりました。その時間では、同じ年代同士での交流の幅の広がりやコミュニケーションの広がりなどが見られました。

2022	こんなことがありました
4 月	4 周年祭
5 月	干潟観察
6 月	総会
7 月	大田区教育研究会来訪
8 月	担任見学会
9 月	大田区フリースクール等協議会
10 月	ハロウィンパーティ 文化祭準備
11 月	東京シューレ音楽祭
12 月	里山散策、東京シューレ文化祭、クリスマス会、
1 月	新年会、性講座
2 月	スキー合宿、キミコ方式
3 月	スノーボード体験、国際交流、旅立ち祭、

⑤ 初等部の学び

- ・ 低学年の会員の増えてきており、初等部を年齢で分けての活動を試みましたが、定着には至りませんでした。しかし、個別のニーズに合わせて、「イラストタイム」「動画作成」「外遊び」など、個別対応で、様々な活動づくりを行いました。また、年齢の幅が広がったことで、高学年、中等部の会員が内容を考えながら活動をつくっていきました。

⑥ 行政との連携

- ・ 東京都教育委員会が主宰の東京都フリースクール等ネットワークや大田区教育委員会主宰の大田区フリースクール等ネットワークに参加し、行政との連携をしてきました。

⑦ 課題

活動づくり

- ・ 昨年に比べ活動づくりの雰囲気が出てくるようになったが、サークル活動や実行委員会を担う子どもが一定の人に集中してしまった傾向になり、様々な子どもたちが関われるような工夫をしていく必要性を感じました。
- ・ 火曜講座を中心に講座づくりをしてきましたが、スタッフ自身が関心の幅を広げ、子どもたちが興味・関心がわくような講座づくりをしていく課題を感じました。

正会員数の減少

- ・ 会員数の減少が続いてしまいました。長く関わってもらえるような活動づくりや、家を中心に過ごしている子どもや家庭とのつながりを再度考えていく必要性を感じました。
- ・ 会員増の取り組みとして「オープンディ」の仕組みを新たに作りましたが、会員増にはなかなかつながりませんでした。会員増に向けてはさらなる工夫をしていきます。

■4. ホームエデュケーションネットワーク運営事業

事業費 1,652 (1,580) 万円

前半はコロナ禍の影響でリアル交流が制限される中、「オンラインゲーム交流会(月3回)」「オンライン保護者会」「オンライン運営協議会」「オンライン編集会議」などオンライン活動に力を入れました。

後半からは各地の自主サロンが再開され拠点「立石 BASE」をフルに活用できるようになり、毎月交流会が開催されています。12月には3年ぶりの全国合宿を開催。1月には「リアル保護者交流会と「ゲームサポート事業」を開始し、2月には「スペース会員」を再始動しました。3月には千葉県館山で初めて「アウトドア合宿」を開催しました。

① 「第22回ホームシューレ全国合宿」

- ・3年ぶりの全国合宿は、はじめてプログラム内容を全て運営協議会で企画・運営しました。
- ・プログラムの全てが会員によって創られた初めての合宿となりました。
- ・参加者は75人でした。

② 「第1回アウトドア合宿」

- ・ホームシューレ主催では「相部屋」「自炊」「自主運営」の初めての企画となりました。
- ・夜は即席バンドのライブもあり、親睦の深まった2日間でした。
- ・参加者は23人でした。

③ リアル交流機会の復活

- ・立石 BASE を拠点とし、定期的な交流と他者との活動を目的に月2回開催しています。
- ・3月に東京タワーからスカイツリーまで歩きました。
- ・参加者は4月現在で7人です。

④ 「社会見学」

- ・ボーイング社の助成を受けた社会見学を関東と関西で実施しました。
- ・関東はバスで「日本未来科学館」と「横浜カップヌードルミュージアム」を見学しました。
- ・関西はヤマト運輸の巨大物流倉庫を見学しました。見学しました。
- ・参加者は関東・関西合わせて25人でした。

⑤ 「ゲームサポート事業」

- ・オンラインで高齢者会員向けのゲームをともにプレイし・サポートする事業を開始しましたが、利用料がネックとなり、希望者が少ない状況です。
- ・利用者は3名でスタートし4月現在では1名です。

⑥ 「リアル保護者交流会」

- ・「かつしかシンフォニーヒルズ」にて2回実施しました。
- ・1回目は終了後、近くのイタリアンレストランで食事を開催しました。
- ・参加者は1回目31人、2回目17人でした。

⑦ 「ホームシューレ運営協議会」

- ・オンラインで月1回開催しています。
- ・会員が進行・記録をし、自主運営しています。毎回10人～20人くらいの参加があります。

⑧ 「性の学び」

- ・保護者 SNS (slack) 「性や性教育について気軽に話すチャンネル」で情報交換しました。
- ・保護者と共にインタビューを行い、会員誌に「日常の中の性教育」として掲載しました

⑨ 課題

- ・広報：退会者の最も少なかった1年であったと同時に、新入会の最も少なかった1年でもありました。特にHPのアクセス数増加が課題です。
- ・収入増：入会減により、収入が低下しています。

2022	こんなことがありました
4月	9日「オンライン保護者交流会」/11日「三和高校 HS コース入学式」/17日「オンライン運営協議会」/18日「ゲームとお茶の会(立石)」
5月	18日「運営協議会」/21日「オンライン交流会」
6月	10日「高校コース交流会」/17日「運営協議会」/18日「オンライン交流会」/20日「ゲームとお茶の会」/22日「スペース利用」
7月	16日「オンライン交流会」/18日「ゲームとお茶の会」/17日「運営協議会」
8月	19日「運営協議会」/10日「amazon 上尾 FC 見学会」/高校コース前期テスト/28日「オンライン」
9月	9日「運営協議会」/12日「お茶とゲームの会」/17日「オンライン交流会」
10月	7日・27日「オンラインスクーリング」/14日「運営協議会」/15日から8日「高校コース北海道スクーリング」/29日「オンライン交流会」/31日「ゲームとお茶の会」
11月	12日～14日「臨時スクーリング」/18日「運営協議会」/21日「ゲームとお茶の会」/25日「臨時スクーリング」
12月	8日「臨時スクーリング」/10日「オンライン交流会」/17日～18日「第22回ホームシューレ全国合宿(湯河原)」
1月	15日「運営協議会」/21日「オンライン交流会」/23日「ゲームとお茶の会」/28日「保護者リアル交流会」/※「ゲームサポート事業」開始
2月	2日「スペース会員事業」開始/4日高校コース「後期テスト」/8日「運営協議会」/13日「再テスト」/20日「ゲームとお茶の会」/24日「再々テスト」/25日「オンライン交流会」
3月	8日「運営協議会」/12日「保護者リアル交流会」/25日～26日「第1回アウトドア合宿」

■ 5. 公民連携事業

事業費：3,705 (3,573) 万円

(1) 世田谷区教育支援センター ほっとスクール「希望丘」運営委託事業

2022 年度も、定員オーバーの為 9 月で見学受け入れをストップしました。年度末の最終的な登録人数は、小学生 61 名・中学生 56 名でした。2 部制の廃止し 1 日を 3 つのブロック（午前フリータイム・お昼基礎学習タイム・午後ふかめタイム）に区切ったの活動を行ったり、子ども予算会議等を経て「ほっとスクール希望丘らしい学び」を模索しました。

また、サポート委員会を結成し、子どもだけでなく保護者とも創るほっとスクールを目指して、子ども達の学びを深めることができました。サポート委員会での活動をきっかけに、複合施設内の保育園との交流が一気に深まり職業体験も行うことができました。

① 「学び」の進化

- 2 部制を廃止し、滞在時間を長くすることで、午前「フリータイム」、お昼「基礎学習タイム」、午後「ふかめタイム」の設定を行い、子どもとともにほっとスクール「希望丘」らしい学びを模索しました。ふかめタイムでは、さまざまなプロジェクト活動が拡がりました。
- 3 年目になる「生と性の健康講座」は、新たに、中学生向けの雑談タイムを取り入れ、日頃感じている悩みや困っていることについて話し合いました。不確かな情報と自分の想像だけでは判断が難しい内容について、専門家の助産師の講師の方からエッセンスをもらいながらみんなで考えを深めることができました。

② 「学び」によって「居場所」を侵食させない

- それぞれの子供が、安心できる「居場所」であることが大前提です。そのために、子どもの状況・状態を正確につかむための保護者や児相・子ども家庭支援センター等の関係機関との連携を密にしました。子どもの状態によって、保護者とともに活動を検討し、必要に応じて他機関（ほっと以外の居場所等）へつなぐことも検討しました。

③ オンラインの導入

- 個別タイムでスタッフとつながる時間を創出するだけでなく、ほっとスクールに通室しにくい中 3 生に向けて、全 6 回の「オンライン進路講座」を行いました。第 1,2 回で中学卒業後の進路について説明し第 3 回でパンフレット展示・個別相談、第 4~6 回は作文面接対策を行いました。合計 9 名のオンライン支援を入口に 6 名が通室生になりました。

④ 保護者とともに創るほっとスクール「希望丘」

- 保護者とともに、サポート委員会を始動し、4 回の話し合いを重ねました。子ども達の活動の支援についてだけでなく、大人から子どもへ伝えたいこととして、保護者が行う講座を 2 つ実施していただきました。①「お金のはなし」②「あかちゃんふれあい体験」複合施設内のおでかけひろばから赤ちゃん連れを招き、赤ちゃんに触れあいながら、子育ての大変さに気づき、困った時には「助けて」と言っていることや、身の回りにはたくさん人のつながりや支援があることを学ぶ時間となりました。

⑤ 子どもと創る「活動予算」

2022	こんなことがありました
4 月	継続生面談週間、はじまりのつどい、保護者会
5 月	不登校保護者のつどい
6 月	サポート委員会（初回）子ども予算会議
7 月	不登校保護者のつどい、保護者懇親会、おわりのつどい、夏のイベント(縁日)
8 月	世田谷スタッフ研修、学校訪問、担任見学連絡会、オンライン進路イベント(全 6 回)
9 月	はじまりのつどい、不登校保護者のつどい、ほっとスクール合同進路説明会
10 月	保護者会、サポート委員会、ほっとスクール合同芋ほり遠足
11 月	避難訓練、スポーツ交流会、若者シンポ「経験者が語る不登校」、生と性の健康講座
12 月	不登校保護者のつどい、おわりのつどい
1 月	はじまりのつどい、保護者会、サポート委員会もちつき、神社巡り
2 月	不登校保護者のつどい、4 周年祭、複合施設合同避難訓練、お金の講座、職場体験(保育園)
3 月	小学生の卒業を祝う会、赤ちゃんふれあい体験お別れ遠足、旅立ち祭、おわりのつどい

- ・ 子ども達が活動予算を決める「予算会議」の活動も実りました。それぞれのプロジェクトや緑日・クリスマス・4周年祭などのイベント、読みたいマンガなど、限られた子ども活動費のなかで年度初めと年度途中で、どのように予算を分配するのか、先の見通しを持ちながらスタッフと一緒に考えることができました。

⑥ 学びの環境づくり・オンライン器機の購入

- ・ 基礎学習タイムの定着のため、子ども達の個別ファイルを収納する棚の設置や、学習スペース固定化を行いました
- ・ スタッフの利用するパソコンの老朽化にともない、4台のパソコンを追加購入しました。

(2) 北区教育総合相談センター委託事業／北区児童発達支援センター協力事業

① 北区教育総合相談センター委託事業

- ・ 2018~2020年度の北区政策提案協働事業の成果により、2021年度につづいて2022年度保護者の集いを北とぴあで年4回受託実施しました。シューレのス。タッフ、保護者、OBOGの講演やシンポジウム、不登校からの進学・進路の情報提供を行い、のべ73家庭の参加があり、アンケートでは高い評価を得ました。
- ・ シューレ保護者やボランティア学生の協力を得て実施し収益にも貢献しました。
- ・ 地域や教育委員会との関係や信頼は深まりましたが、今年度は王子シューレの会員増には反映しませんでした。
- ・ 2023年度の事業委託も内定していましたが、対外活動自粛の方針を優先して辞退しました。

② 北区児童発達支援センター協力事業

- ・ 児童発達支援センターの依頼を受けて、不登校に関する職員・相談員研修1回、年3回開催の保護者の会の運営協力を行い連携を深めました。
- ・ 2023年度は、センターの事業変更とシューレの方針により、必要に応じての協力関係を持つこととなりました。

■ 6. その他の事業

(1) 子ども活動助成事業（ボーイング社助成）

事業費 174 万円（人件費・管理費を除く）

子ども中心の教育で、下記の活動を実施しました。

① 「この人に会いたい」など、出会いたい・学びたい人とのアンケートや出会いを体験する活動

- ・ 知りたい職業、体験してみたい職業、様々な生き方をしている会ってみたい人について、子どもたちに「Webでのアンケート」「ミーティングでの呼びかけ」「日常会話の中での呼びかけ」の方法でアンケートを実施しました。アンケートでは、自然体験活動家、ユーチューバー、プロスポーツ選手、お笑い芸人など、職業や具体的な人物についても意見が集まりました。その中から、計画が進み7月には自然体験活動家の方をお招きしての、公開企画「自然塾」を開催することができました。
- ・ 各スペースのミーティングを中心にプロジェクトの企画を相談し、王子シューレでは“美の時間”として「ネイル講座」「茶道入門」「マナー講座」など開催、大田シューレでは“火曜講座”として「リズムワークショップ」「子どもの権利について」「プログラミング講座」など、職を知り、子どもたちの未来をつくる、活動としての広がりが生まれました。
- ・ ホームシューレでは、子どもと保護者が参加する社会科見学活動として実施し、リアル交流の活動が広がりました。

② 「ようこそ先輩」など、不登校経験者や卒業生から学ぶ・出会う活動

- ・ 2月に開催したスキー合宿のなかでOBを招いて、不登校経験や進路について学ぶ機会を持つことができました。
- ・ 王子シューレでは声優をしているOG、流山シューレでは舞台関係の会社経営しているOB、大田シューレでは保護者説明会でスクールソーシャルワーカーをしているOB、俳優をしているOGを招きました。

③ 不登校経験など、体験や経験を発信する活動

- ・ シューレ通信を通して、自分たちの活動報告や企画・体験の発信に取り組みました。

(2) フリースクール スタッフ養成・創業支援プログラム (石橋財団助成) 事業費 106 (618) 万円

全国各地にフリースクールが量的にも質的にも充実していく環境を目指して、石橋財団から助成を受け、フリースクールスタッフを養成するプログラムと創業支援プログラムを実施してきましたが、最終期として「フリースクールぴーす」(山梨県甲府市)の創業支援(2年目)を行いました。プログラム全体としては2018年度から、スタッフ養成6名、創業支援2団体を実施しました。

(3) 東京シューレ奨学基金による経済支援事業

事業費 215 (116) 万円

家庭の経済状況や急変によってフリースクールに通うことを断念しないで済むように申請によって会費・学費の減額支援し、減免分は東京シューレ奨学基金による充当を行いました。

- ① **入会金免除、会費の減免制度** …フリースクール、ホームシューレあわせて9家庭10名、合計2,152,260円の減免支援を行いました。
- ② **東京シューレ奨学基金** …上記の減免は基金により実施しました。奨学基金は寄付金によって成り立っており、寄付受入れ2,371,430円、期末残高219,170円でした。ホームページクレジット決済によるご寄付、入会・入学時寄付の半額、会費端数切り上げ寄付のご協力等のご協力により原資を確保できました。

■ 7. その他の活動について

(1) 高校コース事業

① フリースクールコース

- ・ フリースクールは2022年度から明聖高校・東京シューレコースとしてスタートしました。
- ・ 新入生14名を受け入れ、三和高校からの転学生16名を含め、在籍者数30名でスタートとしました。また三和高校には王子シューレの会員が8名残りました。
- ・ 明聖高校では、7月末と12月末のそれぞれ2日間、中野キャンパスでスクーリングが行われました。また1月には単位認定テストがやはり中野キャンパスで実施され、3月には3年生全員7名が卒業し、それぞれ新しいステップを踏み出しました。

② ホームシューレコース

- ・ ホームシューレコースは8月にアマゾンの上尾にある巨大倉庫を見学しました。
- ・ 10月7日、24日、27日にはコロナ感染対応でオンラインスクーリングを実施しました。
- ・ また、北海道スクーリングは、10月15日から18日までの3泊4日、日程を短縮して実施しました。主な内容は旭山動物園で行動展示を見学したり、和寒町の郷土資料館を教育委員会の方にご案内いただいたり、書道、茶道体験、パークゴルフ、旭川グループ活動などでした。夜にはカードゲームなどをして、交流も深まりました。
- ・ 総合学習では、各自が取り組んだユニークな個人研究・進路調べを冊子にまとめ、配布しました。

(2) 新型コロナウイルス感染拡大防止、ウィズコロナの中での活動

- ① **フリースクール閉室・時短閉室** …各スペースの状況に応じて閉室時間を調整。
- ② **感染予防対策** …検温・消毒、手洗い、マスク着用、三密を防ぐ、黙食、部屋定員の設定、ミーティングでの注意喚起など通年で実施。
- ③ **合宿等や飲食を伴う活動の再開** …スキー合宿や旅行、お泊り会など、感染予防や抗原検査等の対策を実施することで再開。日常活動での料理なども再開しました。

(3) 性や権利の学び、性について学ぶ会の活動

安心や安全、人権、性の学びに重点を置き、性講座を各スペースで実施。また「性について学ぶ会」は引き続き保護者・子ども参加で月1回開催し、7月には「性の学びフェスタ」を開催しました。

(4) 保護者会/親の学び合い・相談

- ① 保護者会・保護者参加参画 …保護者会年 11 回開催。うちスペース合同保護者会を 1 月にオンライン開催。
- ② フリースクール説明見学会 …入会検討の保護者対象に開催。
- ③ 相談電話・来訪相談 … 平日月～金 14:00～17:00、相談電話は常設実施
- ④ 親ゼミ・親の会 …毎月第 2 土曜日に親ゼミを年間 10 回、王子・流山・大田親の会は月 1 回開催。
- ⑤ スタッフの研修等の活動 …「人権研修」(全スタッフ・ボランティア対象)、「遊び・スポーツ研究部会」(NPO・学園スタッフ合同)、「性について学ぶ会」(全スタッフ・保護者の任意参加)を定期開催。小金井市・東京学芸大「もくせい教室」、武蔵野市「クレスコーレ」、「きのくに子どもの村学園南アルプス小学校」、千葉県 FS 等ネットワークと成田市「ワイズアカデミー」、松戸市「共育ステーション地球の家」、横芝光町「フリースクールありのまま」等の訪問研修、JDEC 日本フリースクール大会(大阪・オンライン)、登校拒否・不登校を考える夏の全国大会(気仙沼・オンライン)参加、その他、スタッフの自主研修支援など

(5) 担任見学会、一般対象の研修・講習会、視察等

- ① フリースクール担任見学会 …会員の在籍校の担任や SC・SSW 等を対象に夏休みを利用して見学会を開催(流山は個別対応)
- ② 一般見学会や視察の受け入れ …説明見学会のほか、国際医療福祉大学実習生、東洋大学、大東文化大学、東京しごとセンターNPO 実習等の受け入れ

(6) 普通教育機会確保法、フリースクールの公的支援諸施策の活用や政策提案

- ① 普通教育機会確保法の周知、国・自治体のフリースクール等支援の促進 …フリースクール全国ネットワーク、親の会の全国ネットワーク、東京都フリースクール等ネットワーク(TFN)、千葉県フリースクール等ネットワーク(CFN)の一員として、フリースクール等へ通うための家庭への経済支援とフリースクールへの財政支援の実現を求めたり、フリースクールやほっとスクールの現場視察、教員・SC・SSW 研修、児童発達支援センター職員研修などをとおして多様な学びや支援・確保法等の周知を推進しました。
- ② 自治体の会議等への参加 …東京都学校フリースクール等協議会、北区不登校支援協議会、大田区フリースクール等協議会などに参加し、交流と連携を図りました。
- ③ 世田谷区事業・北区事業を通じた公民連携の推進(前掲)

(7) NPO・地域や企業・財団等との連携・協働

- ① NPO・地域連携 … フリースクール全国ネットワーク、登校拒否・不登校を考える全国ネットワーク、多様な学び保障法を実現する会(8月解散)、東京都フリースクール等ネットワーク、千葉県フリースクール等ネットワーク、NPO 法 eboard(フリースクール向け研修プログラム eDojo の実証実験参加)、一般社団法人ソウレッジ(性の学びフェスタ、ホームシューレインタビュー)、S.C.P.Japan(バルサ財団とのスポーツプログラム)北区子ども・若者応援ネットワーク、北区社会福祉協議会(おちやのご祭イベントの会場提供協力)、北区市民活動推進機構、大田区 NPO 団体交流会などの構成員として連携して、地域連携や不登校理解の促進、公的支援を求める取組を継続しました。
- ② 企業・財団等連携 … 企業・財団による社会貢献や寄付助成プログラムと連携し、資金、人材、教育資材、学習体験機会などの提供をいただきました。(敬称略で表記)

公益法人石橋財団：フリースクールスタッフ養成・フリースクール創業支援プログラム

ボーイング ジャパン：子ども中心の活動

セールスフォース ジャパン：データベース構築と運用

アマゾン ジャパン：工場見学や子どもたちへの文具プレゼント

ナイキ ジャパン：スポーツ施設提供、スポーツ用品の提供

ほのぼの運動協議会：フリースクール活動

日本 NPO センター：テックスープ、など

■ 8. 収益事業（認可保育所貸付事業）

収益 1,945（1,945）万円

大田ビルにおける認可保育所貸付を継続し、フリースクールのスペースを確保するとともに、土地建物の借入金返済（今期 1,453 万円）を計画的に実施しました。

■ 9. 団体の運営に関する報告

（1）組織

① **NPO 会員数（総会時）（ ）は昨年度…** 会員 306（353）名、支援会員 52（51）名、

② **総会運営…** 通常総会 2022 年 6 月 11 日（土）開催

③ **理事会運営…** 理事会 8 回、理事会協議会 1 回開催

・4月16日

○性暴力加害被害再発防止 / 子どもの人権擁護月間活動

○委員会、チームの設置と権能・権限について ③2022 年度経営計画について ○性加害事件対応について / 被害当事者様へのお手紙について / 東京シュール性暴力加害被害再発防止・子どもの人権擁護月間活動 ○委員会、チームの設置と権能・権限について ○2022 年度経営計画について / 2022 年度賞与執行計画について / 事業損益赤字への資金調達対策について / 事業スペース持続のための評価・コミットメントライン確認と検討プロセスについて ○人事委員会準備チームの立ち上げ ○調整手当未支給の処理について再提案 ○スタッフの時間外手当について ○運営委員会について ○大田非常勤スタッフ採用チームの立ち上げ

○規程制定・改定について / 情報セキュリティ規程制定 / 会費入会金および会費等に関する規程の改定 / 職場におけるハラスメントの防止に関する規程の制定 / スタッフ採用ガイドラインの改定（3 月より継続）

・5月14日

○2021 年度決算および監査報告 ○2022 年度経営計画について / 2022 年度賞与執行計画について

○総会運営について ○調整手当未支給の処理について再提案 ○性加害事件について / 被害当事者様への謝罪 / 東京シュール性暴力加害被害再発防止・子どもの人権擁護月間活動について ○ホームシュール立石 BASE の賃貸契約更新について ○保護者の会（仮称）の創設について ○2021 年度債権放棄について ○運営委員会について

・7月23日

○報告事項 / 6月決算 / NPO 総会 振り返りについて / 認定 NPO 取得進捗 / 経営計画に関する案件（意見交換含む） / 人事委員会設置準備チーム進捗状況

○10万円を超える支出に関しての決済 ○寄付募集について ○職員の所定時間外勤務に関するアンケート調査 ○人権委員会規定修正案 & 人権委員会構成メンバーについて ○性加害事件被害当事者の方とのやり取りについて ○規定関係 / 情報セキュリティ規定改定について / リスク管理規程 / 「性の学びフェスタ」に関する事項

・9月24日

○報告事項 / 財務・会員状況 / 事務局・王子体制変更に伴う非常勤スタッフ採用 / 性加害事件被害当事者様とのやり取り / 認定 NPO 法人化実務作業 / 教育活動報告 フリースクール、ホームシュール、親の活動 / 新宿シュール契約更新について

○ゲームサポーター事業 ○事業の進捗・成果と経営評価 / 事業の進捗・成果と経営評価 / 冬季賞与執行の判断基準 ○人事委員会準備会より ○法人事務局の増員について ○人権委員および事務局員の推薦・選出の件 / 人権委員会規約について / 人権委員会構成メンバーについて ○財産に関わる事項 ○諸規程整備 / 役員報酬規程 / 電子取引データの訂正及び削除の防止に関する事務処理規程（電子帳簿保存法改正による）について報告

・11月26日

○報告事項 / 財務・会員状況 / スタッフの超過勤務実態アンケート調査報告 / リスク管理規定 について / 王子・新宿契約更新状況について / フリースクール活動報告、ホームシュール活動報告

○人事委員会および関係機関の在り方に関する提案（人事委員会検討チーム） ○財務チームより 私募債募集と寄付募集強化について（財務チーム） ○冬季賞与執行について（財務チーム） ○定年退職後雇用者の賞与についての検討（給与待遇改善委員会） ○諸規程整備 / 役員報酬規程 / 入会金規程と再入会対応について ○流山契約更新

・1月28日

○報告事項 / 財務状況 会員状況 / 認定 NPO 進捗報告 / フリースクール活動、ホームシュール活動 報告 / 中長期計画策定に

ついて経過報告と意見交換 / 性加害事件対応チーム報告

○ 王子ビル契約更新について / 役員関係者からの借入金について / 諸規程整備 / 人事委員会規程 / 入会金規程と再入会対応について ○ 役員改選について / スケジュール等の確認 / 次期役員候補者を募集する上での観点や方針についての意見交換 ○ 性加害事件対応について

・2月26日

○ 報告事項 / 性加害事件当団体による発信について、当時のスタッフによる実践的総括について、現役保護者説明会について / 次年度に向けた常勤職員募集について

○ 性加害事件対応について / 被害当事者様とのやり取りについて / 「書籍「僕は僕でよかったんだ」発行停止 / 当団体によるフリースクールへの緊急受け入れについて

・3月19日

○ 報告事項 / 来年度人権研修計画 / 財務状況 / フリースクール・ホームシューレ活動報告 / 認定 NPO 法人格取得進捗 / 宿泊企画における性加害再発防止プログラム報告ならびに意見交換 / 2023 年度の役員体制について

○ 性加害事件に関して東京シューレの対応について / 2023 年度事業計画・予算策定について / 規程改定（給与規程）

④ 運営委員会準備会

2021 年 8 月臨時総会を受けて「子ども中心」の教育活動をしていくためにはどのような運営委員会が望ましいかについて、運営委員会設立準備会を立ち上げ、議論を開始しました。

主な開催内容

- ・2022 年 4 月 9 日（土）…①新年度自己紹介、②準会員制度について、③子ども活動助成金事業について（自然塾の開催検討、バスケットボール選手招へいについて、フライトシミュレータープロジェクト）、④年間行事（性を学ぶ会、企業見学、文化祭の開催について）
- ・2022 年 6 月 10 日（金）…①運営委員会の仕組みについて
- ・2022 年 7 月 14 日（火）…①子ども参加の少なさについて、②子どもたちが参加しやすい運営委員会の持ち方

議論を重ねる中で、●子どもたちが参加、意見交換のしやすい「子ども参画」の場づくりについて ●スペース、部門ごとの活動の独自性や、主に関わるに年齢層の違いについて ●子どもとスタッフだけの議論の場の透明性 ●情報共有についてなど、課題共有がされました。

全体活動の意思決定の場として「合同ミーティング」の開催も提案され、様々なかたちで、団体として抱えている課題について取り組んでいく方針です。

上記の取り組みを踏まえ、後述する「中長期計画策定」について、スタッフの意見交換の場では、子ども参画のあり方について、スタッフも学びを深めていく必要があると課題共有もなされました。

⑤ 委員会運営… 下記、理事会により設置された各種委員会が活動しました。

財政委員会（会費の減免受付、会費未収対応）

スタッフ給与待遇改善委員会（スタッフ、社労士／スタッフ待遇改善）

PC ネットワーク・情報セキュリティ委員会（マイクロソフト 365 導入支援、情報セキュリティ規程作成・情報セキュリティ研修、顧問：みらいこ株式会社）

ファンレイジング・チーム（再活動の相談）

⑥ スタッフ体制… 常勤スタッフ・サポートスタッフ、非常勤スタッフ、ボランティアで体制をつくりました。組織改革に基づく業務の構築と分担、常勤だけでなく非常勤・ボランティアを含めたスタッフのコミュニケーションや体制等を進めました。外部を活用した法人運営への転換でスタッフ体制が支えられました。一方、新たな組織体制の過渡期、分権分担体制の模索の期であったため、調整や協議の時間が過重・偏重し、課題もありました。

(2) 性暴力加害事件関連の動きと再発防止の取り組みについて

I. 性暴力加害事件関連の動き

被害当事者様に公開前にご確認いただくための連絡を差し上げており、その対応が整った時点で開示いたします

II. 性暴力加害や人権侵害の再発防止施策の推進

① 全スタッフを対象とした人権研修の実施

全職員（ボランティア含む）を対象としたスタッフ研修を、第 1 回「子どもの意見表明・参加の権利」（2月7日（火）、講師：喜多明人代表理事）、第 2 回「組織で学ぶトラウマインフォームドケア」（2月27日（月）、講師：安藤由紀人権委員長）として実施しました。

② 宿泊を伴う行事に関する確認

コロナによる自粛の後、宿泊活動が徐々に再開されてきたことを受けて、3月19日の理事会において、性加害・人権侵害の再発防止として現時点で実施されている具体的な対策内容を確認しました。スタッフミーティングから、下記の取り組みが報告されました。

宿泊を伴う行事についての再発防止対策（まとめ）

◆現在、取り組んでいること

- ・参加者の性別に伴い、引率スタッフを決めている
- ・性別で部屋を分ける
- ・就寝時間以降の（男性、女性間での）部屋の行き来はしない
- ・スタッフの宿泊部屋については、子どもの様子や状況に応じその都度対応している 同じ部屋で宿泊する場合は、同性の子どもと一緒にの部屋にする

◆今後、取り組むべきこと・課題

- ・保護者とともに考えていく機会を持つこと
- ・宿泊イベント用ガイドラインの作成
- ・保護者へ事前説明会の開催など事前のやり取りを行う
- ・合宿だけでなく、お泊り会などについても保護者の同意書をもらった方がよいかの検討

③ フリースクール説明会やホームページにおける事件と再発防止施策の説明

事件および再発防止施策について、ホームページ、説明会、見学・入会前の面談、一般見学において資料をもとに必ず説明することとしてきました。

これら一連の取り組みに加えて、新たに性暴力を含む人権侵害を起こさないこと、見過ごさないことを意識して取り組んでいます。

④ 啓発・情報提供パンフレットの配布開始と学習活動

・ 会員向け人権・相談に関する啓発・情報提供パンフレットの配布開始

人権・相談に関する啓発・情報パンフレット「ココロとカラダの安全を守るために」を 2022 年 4 月に完成させました。内容を理解しやすいように初等部（小学生）版、中高等部（中高生）版の 2 種類を作成し、東京シュール全会員に配布すると共に現会員の皆さんには各スペースのミーティングで読み合わせをし、保護者の皆さんには各スペースの保護者会で周知を行いました。また、新たに入会する会員の皆様には、入会面談時に必ずパンフレットの内容を読んで伝え、お渡ししています。

• **各スペース・部門での、性に関する学びの実施**

当団体において未だ学びの機会が十分とはいえない「性に関する学び」については、「助産師の方による性講座」を各部門、スペースごとに開催するなどして、子どもたちの学びに取り組んでまいりました。また、スタッフ、保護者の方が、性に関する学びを深める機会を持ち取り組みました。

詳細は後述の事業報告をご参照ください。

• **スタッフ・保護者等による毎月の性についての会合**

「性について学ぶ会」「性について語る会」を 1 カ月ごと交互に開催。7 月 24 日には岩室紳也さんをお招きし、子ども・保護者・スタッフが、性・心やからだの健康についてともに学ぶ合同企画を開催しました。

専門家の方たちを講師としてお招きした学習活動を行いながら、性に関する正しい知識を、子ども・おとながともに学ぶことで、正しい知識を基にした困りごとの相談や、語らいができる場づくりに取り組んできました。

■ 10. 運営・経営

① 事業・活動の継続、持続可能な組織と財政基盤づくり

(ア) 会員数を増やす取り組み

- 各スペースオープンデーの定期的な開催と説明見学会を基本開催と柔軟に実施しました。
- ホームページの全面改訂を 4 月に実施しました。ネットでの広報抑制の方針により限られた情報開示や発信をおこなっているための限界もありました。
- 親の会の開催：流山、大田、王子では定期実施しました。
- 公開講座（新宿シューレ）、学校・教員見学会、公民連携を活用しての広報、活動レター作成や配布で、会員募集に努めました。

(イ) 認定 NPO 法人化による資金確保と環境づくり

- 2020 年度、2021 年度の寄付実績をもとに、2023 年 3 月 31 日に認定申請を行いました。
- 活動の公益性公開性を高めるための規程整備や情報開示（ニュースレター、ホームページ）の整備を行いました。

(ウ) 寄付募集の促進

- 認定 NPO 取得寄付キャンペーンを実施し、奨学基金を主な目的とした寄付募集を実施しました。
- 「会費端数切上げ」の寄付募集を行い、フリースクール 7 家庭、ホームシューレ 14 家庭から継続的な寄付をいただきました。
- OBOG へ向けて、また退会して OBOG になるタイミングで、つながり続ける支援会員を呼びかけました。また、NPO 会員退会時にも支援会員へ会員変更してつながり続けていただけるよう呼びかけました。
- ほのぼの運動協議会、アマゾン、大和証券からご寄付をいただきました。
- 3 カ年の活動事業に対する大口の個人寄付をいただきました。
- 石橋財団、ボーイング社から活動への寄付助成金をいただきました。
- 認定 NPO や寄付管理のためのスタッフチームとデータベース整備に着手し運用を開始しました。

(エ) 長期借入の実施

NPO 事業収益の慢性的な赤字は資金確保が不安定となっていることから、理事、元役員、スタッフを中心に協力を募り近い関係者から長期借入として資金調達を実施しました。理事からの依頼に応えてくれた卒業生からも協力いただきました。

2022 年度今期の借入

理事 3 名（計 550 万円）、元役員 2 名（計 100 万円）、スタッフ 4 名（計 300 万円）、卒業生 1 名（50 万円）

総額 1000 万円

借入期間 2023 年 2 月 1 日(水)～2028 年 1 月 31 日(月)(5 年間固定)

借入金の利息 年 0.2% (利息も返済時一括支払い)

2023 年度～2027 年度の借入計画

会員等に募り、各年総額 200 万円、5 年間で総額 1000 万円の買い入れによる資金調達を実施予定

(オ) 資金繰り・事業スペースの更新確認

理事会では、定期的に財務チームが財務状況の把握と資金繰りの確認を行う体制をつくり、スタッフ賞与の執行は年間 3 か月分給与のところ、スタッフの理解を求め 2 か月分に抑制し、スペース賃貸の更新については、立石、流山、王子のスペースの更新を行いました。

(カ) 組織とスタッフ体制

- ・ 年度中、年度末に、常勤・非常勤のスタッフ退職があり、スタッフ雇用の安定が課題となりました。
- ・ 会計スタッフの退職を受けて、役員も業務を分担協力して、会計業務の持続と見直しを進めました。
- ・ スペーススタッフの補充を決め、年度を越えてしまいましたが、1 名の常勤スタッフ採用が実現しました。
- ・ 理事会やスタッフでは、組織改革と業務再構築、関係調整、性暴力加害事件対応等において、時間的にもメンタル的にも過重な負担が課題となっています。

② スタッフ等の働き方改革・待遇改善

- ・ 有給休暇取得促進、コロナワクチン接種時やり患時の特別有給休暇を実施しました。
- ・ スタッフ代表理事任期中の労災・退職金・雇用保険に相当する条件整備を行いました。
- ・ 本部・事務局の業務分担が進みましたが、スタッフ退職もあり業務の偏重や過重労働は依然課題です。
- ・ 常勤・非常勤・ボランティア等のスタッフ連携をオンライン活用や研修を通じて進めました。
- ・ 常勤スタッフの雇用契約のあり方(賞与の有無、有期無期)について検討を行いました。

③ 規程の制定・改定…会費規程、役員退職金規程、人事・コンプライアンス委員会規程、ハラスメント防止規程、リスク管理規程、スタッフ採用ガイドラインなど

④ 施設・設備・備品

- ・ **資産となる設備・備品等について**
新たな支出は行いませんでした。
- ・ **ログハウス施設の現状と今後について**
昨年度総会でも維持費や今後の扱いについて質問があり、理事会ではスタッフミーティングにも意見を聞いたうえで、下記の方針を確認しました。
 - ・ 今後の東京シューレの NPO 活動での施設活用は行わないこと
 - ・ 施設の保存・処分等の取り扱いについては、性加害事件の被害当事者との関係と事件対応を優先し、配慮して慎重に進めること
 - ・ そのために必要な期間は施設保有を維持すること

【現状】

同施設は法人化前の 1996 年に子ども活動により建設竣工し、法人化移行時の活動及び財産の継承方針のもと、人団体の旧シューレから 2400 万円で継承することとし、2002 年 NPO 法人に所有権を移転、NPO 活動のための基本財産として、子どもたちの活動のシンボルとして、また子ども合宿や保護者交流等の場として活用してきましたが、現在は使用していません。

⑤ 中長期計画策定

経営危機の改善、認定 NPO・公益性の高い開かれた活動づくり、求められる不登校支援や多様な学びのあり方や公民連携や世田谷区委託事業の今後、教育運営における保護者・スタッフ・子どもの参加参画のあり方、事件への取組を踏まえて、中長期計画を策定に取り組みました。

現段階としましては、外部理事川北秀人さんに検討に加わって頂き、スタッフから「5年後のありたい姿」「3年後の具体的な指標」「(前述の指標を達成するための) 具体的方策」を出し合いました。

2023 年度に継続して、会員の皆様ともコミュニケーション取りながら、具体的な中長期計画策定に取り組んでいくこととします。

決算に関する報告

(1) 2022 年度決算(損益)の概要

- ・ 非営利(NPO)事業における経常収益1億6465万円(目標とした2021年度並み1億6373万円は達成)、経常費用1億6734万円(昨年比1481万円抑制)し、**経常損益▲268万円**となり赤字が軽減
- ・ 事業収益は新宿と流山は好調、大田、ホームシューレは横ばい、王子が低迷で**基幹事業収益は減少**、公民連携事業は増
- ・ 会員等を中心に継続的な寄付、企業・個人からの大口の寄付および助成金は**2004万7819円**(2023、24年度の活動運営に向けた別途1000万円のご寄付もいただく)
- ・ スタッフ賞与の減給(月給3カ月分を2カ月分に)、調整手当未支給分の辞退協力、常勤スタッフの補充先送り、業務分担や委託で人件費を抑制
- ・ その他収益事業(保育所貸付)による経常損益は**1162万円の黒字**
- ・ 非営利(NPO)事業・その他収益事業を統合した損益は**738万円の黒字**で全体では赤字を回避
- ・ 収納不能な会費等が90万5218円にのぼり損失に計上
- ・ 定款および入会金・会費規定に基づき、用途特定のない一般寄付金とNPO入会金・年会費934万円を基本金に組み入れ(収益から控除、基本金は活動目的に必要な施設の取得と整備に充当)

(2) 貸借(事業損益以外のお金の出入り)の概要

- ・ 大田土地建物の長期借入金を1453万円返済
- ・ 次年度以降の活動・運営に対する寄付助成をいただき、指定正味財産に1667万3700円を計上
- ・ 指定正味財産を除くと資金ショートとなる見込みから、理事・スタッフ・卒業生協力者から総額1000万円の長期借入を計画実施(事業計画では「私募債」)
- ・ 退職給付引当金を取り崩し、役員退職金、スタッフ退職金を支給

寄付金・助成金の堅調、人件費の抑制、関係者からの長期借入金による資金調達で、財政状況の悪化は回避できましたが、基幹であるフリースクール・ホームシューレ事業収益の向上を目指したものの、会員数回復には至っていません。コロナによる外への出控え、2021~22年度高等部・高校卒業タイミング退会、学校・教育委員会等の不登校対応の柔軟化や不登校支援メニューの拡大、広報活動抑制の影響、フリースクール等多様な学びへの公費支援の立ち遅れ(学校との格差拡大)など、多様な学びが一定の社会的認知を得る一方、フリースクール等の状況や環境の変化など複合的に影響を受けていると考えられます。

2022年度 活動計算書（その事業がある場合）

特定非営利活動法人東京シュレ

(単位：円)

科目	特定非営利活動に係る事業		その他収益事業		合計
	金額	小計・合計	金額	小計・合計	
[A] 経常収益					
1 受取会費		4,690,000		0	4,690,000
NPO会員受取会費	4,690,000				
2 受取寄附金		13,546,509		0	13,546,509
受取寄附金（一般の寄附金）	4,653,582				
受取寄附金（特定の寄附金）	8,892,927				
3 受取助成金等		6,501,310		0	6,501,310
受取助成金	6,501,310				
4 事業収益		147,784,222		19,452,000	167,236,222
フリースクール 事業収益	131,695,004				
ホームエデュケーション事業収益	16,089,218				
賃貸料収益			19,452,000		
5 その他の収益		-7,864,238		0	-7,864,238
雑収益	1,479,344				
基本金組入額	-9,343,582				
経常収益計		164,657,803		19,452,000	184,109,803
[B] 経常費用					
1 事業費					
(1) 人件費		98,522,036		2,588,378	101,110,414
役員報酬			714,036		
給料手当等	85,141,949		1,384,030		
法定福利費	11,649,195		208,077		
福利厚生費	40,838		0		
退職給付費用	1,690,055		282,235		
(2) その他経費		52,173,115		5,235,069	57,408,184
支払報酬・講師料・研修費	1,028,467		140,000		
荷造運賃発送費	99,275		0		
旅費交通費	6,113,456		71,395		
通信費	1,619,723		19,997		
消耗品・事務用品費	3,138,514		21,217		
修繕・保守料	1,064,731		366,800		
業務委託費	1,163,741		129,305		
水道光熱費	2,736,742		118,245		
地代家賃	19,722,019		0		
賃借料	1,588,804		15,819		
奨学基金充当金	2,234,580		0		
支払手数料	891,298		746		
租税公課	1,231,808		926,360		
減価償却・保証金償却費	4,039,728		3,347,943		
その他費用	3,595,872		65,370		
雑費	1,904,359		11,872		
事業費計		150,695,151		7,823,447	158,518,598
2 管理費					
(1) 人件費		11,688,380		0	11,688,380
役員報酬	6,426,321				
給料手当等	2,915,098				
法定福利費	1,496,907				
福利厚生費	0				
退職給付費用	850,055				
(2) その他経費		4,957,690		0	4,957,690
支払報酬・講師料・研修費	1,362,959				
荷造運賃発送費	20,969				
旅費交通費	213,620				
通信費	99,983				
消耗品・事務用品費	119,878				
修繕・保守料	82,518				
業務委託費	129,305				
水道光熱費	62,353				
地代家賃	818,184				
賃借料	203,706				
支払手数料	51,906				
租税公課	134,623				
減価償却・保証金償却費	1,240,340				
その他費用	374,887				
雑費	42,460				
管理費計		16,646,070		0	16,646,070
経常費用計		167,341,220		7,823,447	175,164,667
当期経常増減額 [A]-[B]…①		-2,683,417		11,628,553	8,945,136
[C] 経常外収益					
特別会計繰入金収益	253,994				
奨学基金繰入金収益	2,081,580				
経常外収益計		2,335,574		0	2,335,574
[D] 経常外費用					
支払利息	877,226		1,855,570		
特別会計繰入金支出	253,994				
雑損失	905,281				
経常外費用計		2,036,501		1,855,570	3,892,071
当期経常外増減額 [C]-[D]…②		299,073		-1,855,570	-1,556,497
経理区分振替額 …③					
税引前当期正味財産増減額 ①+②+③…④		-2,384,344		9,772,983	7,388,639
法人税、住民税及び事業税 …⑤			2,510,800		2,510,800
前期繰越正味財産額 …⑥	-110,723,492				-110,723,492
次期繰越正味財産額 ④-⑤+⑥					-105,845,653

2022 年度 貸借対照表

2023年3月31日現在

特定非営利活動法人東京シューレ

(単位：円)

科 目	金 額	小計・合計
【A】 資 産 の 部		
1 流動資産		
現金預金	96,170,049	
未収金	8,335,196	
仮払金	4,500	
立替金	57,180	
前払費用	3,139,430	
預託金	117,532	
棚卸資産	26,460	
流動資産合計 ……①		107,850,347
2 固定資産		
(1) 有形固定資産		267,789,326
土地	91,723,840	
建物	143,397,137	
建物付属設備	27,079,205	
構築物	3,856,126	
備品	1,733,018	
(2) 無形固定資産		648,000
電話加入権	648,000	
(3) 投資その他の資産		13,004,909
保証金	12,954,909	
出資金	50,000	
固定資産合計 ……②		281,442,235
【A】 資 産 合 計 ①+②		389,292,582
【B-1】 負 債 の 部		
1 流動負債		
前受金	3,695,262	
未払金	3,987,083	
預り金	1,819,771	
仮受金	15,380	
賞与引当金	3,748,754	
未払消費税等	2,520,602	
流動負債合計 ……③		15,786,852
2 固定負債		
長期借入金	190,065,014	
役員長期借入金	6,500,000	
預り敷金	4,863,000	
退職給付引当金	11,660,122	
固定負債合計 ……④		213,088,136
負 債 合 計 ③+④		228,874,988
【B-2】 正 味 財 産 の 部		
基本金	260,139,172	
前期繰越正味財産額	-121,273,117	
当期指定正味財産額	16,673,700	
当期正味財産増減額	4,877,839	
正 味 財 産 合 計		160,417,594
【B】 負 債 及 び 正 味 財 産 合 計 【B-1】+【B-2】		389,292,582

2022 年度 計算書類の注記

特定非営利活動法人東京シューレ

1. 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準によっています。

- (1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法
棚卸資産の評価基準は、最終仕入れによる原価法によっています。
- (2) 固定資産の減価償却の方法
固定資産の減価償却の方法は、法人税の規定に基づいて定額法によっています。
- (3) 引当金の計上基準
賞与引当金は、スタッフの賞与の支給に備えるため支給見込み額のうち当期に帰属する金額を計上、退職給付引当金は、スタッフの退職給付に備えるため、2017年度末における退職給付債務に基づき計上しています。2018年度以降は中小企業退職金共済への加入により掛金を活動計算書に計上しています。
- (4) 施設の提供等の物的サービスを受けた場合の会計処理
ボランティア等による役務の提供を受けた場合は、役務の提供が常勤の場合に収益及び費用として評価し、活動計算書に計上しています。
- (5) 消費税等の会計処理
消費税の会計処理は、税抜きによっています。

3. 使途等が制約された寄付等の内訳

内訳は以下の通りです。

(単位：円)

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
1. 特定寄付金				
① 事業運営全般		14,176,299	4,176,299	10,000,000
② 不登校支援・フリースクール事業		1,183,464	541,105	
③ ホームエデュケーションネットワーク事業		393,628	393,628	
④ その他の活動・イベント等		768,106	768,106	
⑤ 東京シューレ奨学基金		2,371,430	1,906,281	465,149
特定寄付金計	0	18,892,927	7,785,419	10,465,149
2. 助成金				
⑥ 助成財団助成金		499,630	499,630	
⑦ 企業団体寄付助成金	5,748,060	6,927,320	6,001,680	6,673,700
助成金計	5,748,060	7,426,950	6,501,310	6,673,700

4. 固定資産の増減内訳

(単位：円)

科 目	取得価額	取得	減少	期末取得価格	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産						
基本財産						
土地						
大田区仲六郷2丁目13-13	28,572,060			28,572,060	0	28,572,060
大田区仲六郷2丁目13-16	63,151,780			63,151,780	0	63,151,780
建物						
東京シューレ大田ビル	161,846,562			146,237,754	19,169,431	142,677,131
ログハウス(長野 麻績村)	24,000,000			960,001	23,279,998	720,002
新宿旧若松出張所	14,816,748			4	14,816,744	4
建物付属設備						
東京シューレ大田ビル	40,211,593			28,759,661	14,132,245	26,079,348
構築物						
外構工事	5,847,770			4,247,925	1,991,644	3,856,126
備品						
ネットワーク機器等	1,066,159			446,089	770,734	295,425
その他の固定資産						
建物						
新宿 旧若松出張所 建物改修工事	22,221,240			4	22,221,236	4
建物付属設備						
王子 コーエビル 空調設備等	2,327,625			35,874	2,318,617	9,008
〃 玄関、ロッカー設置	1,954,800			640,710	1,509,570	445,230
〃 屋上手摺工事等	166,000			124,500	62,250	103,750
〃 照明器具取替工事	229,000			205,986	38,357	190,643
新宿 旧若松出張所 玄関、自動ドア	1,184,940			153,651	1,051,551	133,389
〃 空調設備	974,658			16,885	974,656	2
流山 グローリアビル 照明器具取付工事	131,000			126,612	13,165	117,835
工具器具備品						
王子 コーエビル ネットワーク機器	642,500			337,313	369,437	273,063
〃 耐火金庫	181,749			110,568	80,268	101,481
〃 給湯器	189,972			1	189,971	1
〃 照明器具等	408,762			319,295	116,853	291,909
〃 看板	496,800			327,060	219,420	277,380
新宿 旧若松出張所 ネットワーク機器等	356,280			248,840	153,118	203,162
流山 グローリアビル パソコン、エアコン	316,800			128,915	240,737	76,063
世田谷 舞台	1,070,820			1	1,070,819	1
HS 東風ビル エアコン工事	359,680			274,587	145,159	214,521
その他備品	4,916,000			12	4,915,988	12
投資その他の資産						
電話加入権	648,000			648,000	0	648,000
保証金						
王子 コーエビル	12,744,000			10,744,000	2,000,000	12,744,000
流山 グローリアビル	120,000			120,000	0	120,000
立石 東風ビル	90,909			90,909	0	90,909
定期預金						
退職給付引当金	19,492,088	11,660,122	19,492,088	11,660,122		11,660,122
次期事業活動寄付助成金		16,673,700		16,673,700		16,673,700
その他	10,000,000					10,000,000
出資金						
瀧野川信用金庫 西ヶ原支店	50,000			50,000	0	50,000
合 計	421,637,516	28,333,822	19,492,088	315,847,918	112,495,808	319,983,442

5. 借入金の増減内訳

(単位：円)

科目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
長期借入金				
瀧野川信用金庫 土地購入	17,230,000		3,960,000	13,270,000
〃 建築費用	183,865,548		10,570,534	173,295,014
役員借入金	0	6,500,000		6,500,000
その他(会員、スタッフ、協力者)借入金	0	3,500,000		3,500,000
合計	201,095,548	10,000,000	14,530,534	196,565,014

6. 役員及びその近親者との取引の内容

(単位：円 1件100万円を超える取引)

科目	財務諸表に計上された金額	内、役員との取引	内、近親者及び支配法人等との取引
(損益計算書) 役員報酬	7,140,357	4,975,215	2,165,142 ※1
(貸借対照表) 役員借入金	6,500,000	4,500,000	
退職給付引当金取崩	19,492,088		2,514,858 ※2

※1 ※2 は、前理事長の役員退職金です。

7. 基本金計算書

2022年4月1日～2023年年3月31日

単位：円

事項	要組入高	組入高	未組入高
I 前期繰越高	314,027,105	250,795,590	63,231,515
II 当期組入額			
NPO入会金・会費収入高	4,690,000	4,690,000	
一般寄付収入高	4,653,582	4,653,582	
	9,343,582	9,343,582	0
III 当期取崩額	0	0	
IV 当期末残高	323,370,687	260,139,172	63,231,515

【基本金に組み入れの対象】

1. 収益控除分(定款規定に基づくNPO入会金・会費および使途指定のない一般寄付金)
2. 基本財産取得分(理事会決議により2016年度まで)
3. 基本財産を借入金にて取得した場合、当該借入金の返済額分(理事会決議により2016年度まで)

注) 上記、2、3の組み入れについて、理事会決議により2017年度より組み入れを行わないと変更した。

2022 年度 財産目録

2023年3月31日現在

特定非営利活動法人東京シューレ

(単位:円)

科 目		金 額	小 計	合 計
[A] 資産の部				
1 流動資産				
現金預金	手元現金	206,774		
	三菱UFJ銀行王子支店普通預金	30,510,538		
	みずほ銀行王子支店普通預金	1,777,016		
	瀧野川信用金庫西ヶ原支店普通預金	15,446,710		
	ゆうちょ銀行振替口座	1,842,189		
	瀧野川信用金庫西ヶ原支店定期積金	3,190,000		
	瀧野川信用金庫西ヶ原支店定期預金	43,196,822	96,170,049	
仮払金		4,500	4,500	
未収金	フリースクール事業未収金	591,860		
	ホームエデュケーション事業未収金	25,000		
	世田谷受託事業未収金	7,718,336	8,335,196	
棚卸資産	貯蔵品 書籍	26,460	26,460	
立替金	他団体他	57,180	57,180	
前払費用	4 月分家賃	1,538,600		
	スタッフ4 月～9 月分通勤定期代	1,562,030		
	その他	38,800	3,139,430	
預託金	Syncable取扱い寄付金等	117,532	117,532	
流動資産合計 …①				107,850,347
2 固定資産				
(1) 有形固定資産				
土地	大田仲六郷2丁目13番13	28,572,060		
	大田仲六郷2丁目13番16	63,151,780	91,723,840	
建物	大田 東京シューレ大田ビル	142,677,131		
	長野 ログハウス	720,002		
	新宿 旧若松出張所	4	143,397,137	
建物付属設備	大田 東京シューレ大田ビル 躯体部分設備等	26,079,348		
	王子 コーエビル 空調設備等	748,631		
	新宿 旧若松玄関鍵取付工事等	133,391		
	流山 グローリアビル照明器具取付工事	117,835	27,079,205	
構築物	大田 東京シューレ大田ビル 外構工事	3,856,126	3,856,126	
什器備品	大田 東京シューレ大田ビル ネットワーク機器等	295,425		
	王子 コーエビル ネットワーク機器等	273,063		
	王子 コーエビル 耐火金庫,看板,照明器具等	670,772		
	新宿 旧若松出張所 ネットワーク機器等	203,162		
	流山 パソコン,エアコン工事	76,064		
	立石 エアコン工事	214,521		
	その他備品	11	1,733,018	267,789,326
(2) 無形固定資産				
電話加入権		648,000	648,000	648,000
(3) 投資その他の資産				
保証金	王子 コーエビル	12,744,000		
	流山 グローリアビル	120,000		
	立石 東風ビル4 階	90,909	12,954,909	
出資金	瀧野川信用金庫西河原支店	50,000	50,000	
固定資産合計 …②				389,292,582
[A] 資産合計 ①+②				497,142,929
[B-1] 負債の部				
1 流動負債				
前受金	フリースクール事業会費等	592,800		
	ホームエデュケーション事業会費等	1,319,362		
	東京シューレ大田ビル 1階、2階家賃	1,783,100	3,695,262	
未払金	株式会社集団4 4 0 Hz PC保守料他	856,350		
	3月分社会保険料	885,573		
	3月分給与	1,700,320		
	3月分サポートスタッフ通勤費	392,874		
	その他	151,966	3,987,083	
預り金	源泉徴収税等	1,819,771	1,819,771	
仮受金	証明書発行手数料等	15,380	15,380	
賞与引当金		3,748,754	3,748,754	
未払消費税		2,525,046	2,525,046	
流動負債合計 …③				15,791,296
2 固定負債				
長期借入金	瀧野川信用金庫西ヶ原支店 土地購入資金	13,270,000		
	瀧野川信用金庫西ヶ原支店 建設資金	173,295,014		
	役員借入金	6,500,000		
	その他	3,500,000	196,565,014	
預り敷金	東京シューレ大田ビル敷金	4,863,000	4,863,000	
退職給付引当金	2017年度末までのスタッフの退職給付金	11,660,122	11,660,122	
固定負債合計 …④				213,088,136
[B-1] 負債合計 ③+④				228,879,432
[B-2] 正味財産合計 [A]-[B-1]				268,263,497

監査報告

監 査 報 告 書

特定非営利活動法人東京シューレ 代表理事 殿

私は、特定非営利活動法人東京シューレ定款第 22 条に基づき、貴法人の第 24 期事業年度（自令和 4 年 4 月 1 日至令和 5 年 3 月 31 日）の決算報告書、すなわち特定非営利活動及びその他の収益活動に係る活動計算書、基本金計算書、貸借対照表並びに財産目録について監査を行った。私は、上記の決算報告書が NPO 法人会計基準に準拠して、当該決算報告書に係る期間の財政状態及び収支の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

令和 5 年 5 月 12 日

監 事 齋 野 愛 建



監査報告書

特定非営利活動法人東京シューレ

代表理事 佐藤信一、池田あつ子、喜多明人 殿

私は、2022年4月1日から2023年3月31日までの、特定非営利活動法人東京シューレの事業運営について監査を行いました。その結果、法人の目的に沿って運営されているものと認めます。

そのうえで、以下の通り付帯意見を申し述べます。

ログシューレにおける性暴力加害事件の被害当事者様への謝罪、再発防止の取り組みに向け、理事会では何度も繰り返し議論されましたが、あまりに進展が遅い状況です。第三者調査委員会も、いまだ設置できていません。

また、この1年の間にも二次加害を繰り返しています。性暴力の理解が浅く、二次加害に関する意識が不足していると指摘せざるを得ません。

謝罪が必要なことはもちろんですが、その前に、①被害当事者様から拝受しているご要望に真摯に耳を傾け、応えていくこと、②なぜこの事件が起こったのかという原因・背景について解明していくこと、③外部専門家に依頼し、他の加害についても検証していくことの3点を求めます。

以上のとおり、報告いたします。

2023年5月24日

監事

石渡 深里



2023 年度 役員の体制

役職（立場）	氏名	主な所属および関係団体
代表理事（職員）	浅岡佑輔	王子シューレ・大田シューレスタッフ、法人事務局
代表理事（保護者）	藤井清志	王子シューレ元保護者
代表理事（外部）	川北秀人	I I H O E [人と組織と地球のための国際研究所] 代表者 (特) J E N 共同代表理事 (般社) ソーシャルビジネス・ネットワーク 理事 (公財) 日本自然保護協会 評議員 (般財) 日本民間公益活動連携機構 (J A N P I A) 評議員 (特) 自然体験活動推進協議会 (C O N E) 監事
理事（保護者）	仲間友洋	大田シューレ会員保護者
理事（職員）	野村芳美	大田シューレスタッフ・保護者、不登校を考える親の会・大田代表
理事（職員）	原野有理	流山シューレスタッフ
理事（外部）	喜多明人	早稲田大学名誉教授 子どもの権利条約フォーラム代表 東京シューレ学園評議員・元理事
監事	紙野愛健	公認会計士・税理士、東京シューレ学園元監事
監事	中島泉	ホームシューレ元保護者